

事例報告

実行を見据えた地域計画づくり

山形県^{むら}農村づくりプロデューサー

高橋 信博



今日のハナシの概要

でも？

いま地域計画もひと段落…

- 意向も聴き取った
 - … 意向は家族で出した結論だったのか？
- 地域での話し合いも成された
 - … 誰と誰が話し合って何が決まったのか？
- 目標地図も計画も完成した
 - … いったい誰が作ったものなのか？
- 今後は実現に向けた実行だ
 - … いまの計画のまま実行でよいのか？

現実的な計画づくり

山形県寒河江市
柴橋地区

複数集落同時に地域計画
地域の営農計画への反映

一般的な地域計画作成の流れ

① アンケート実施（意向調査）

② 意向地図作成

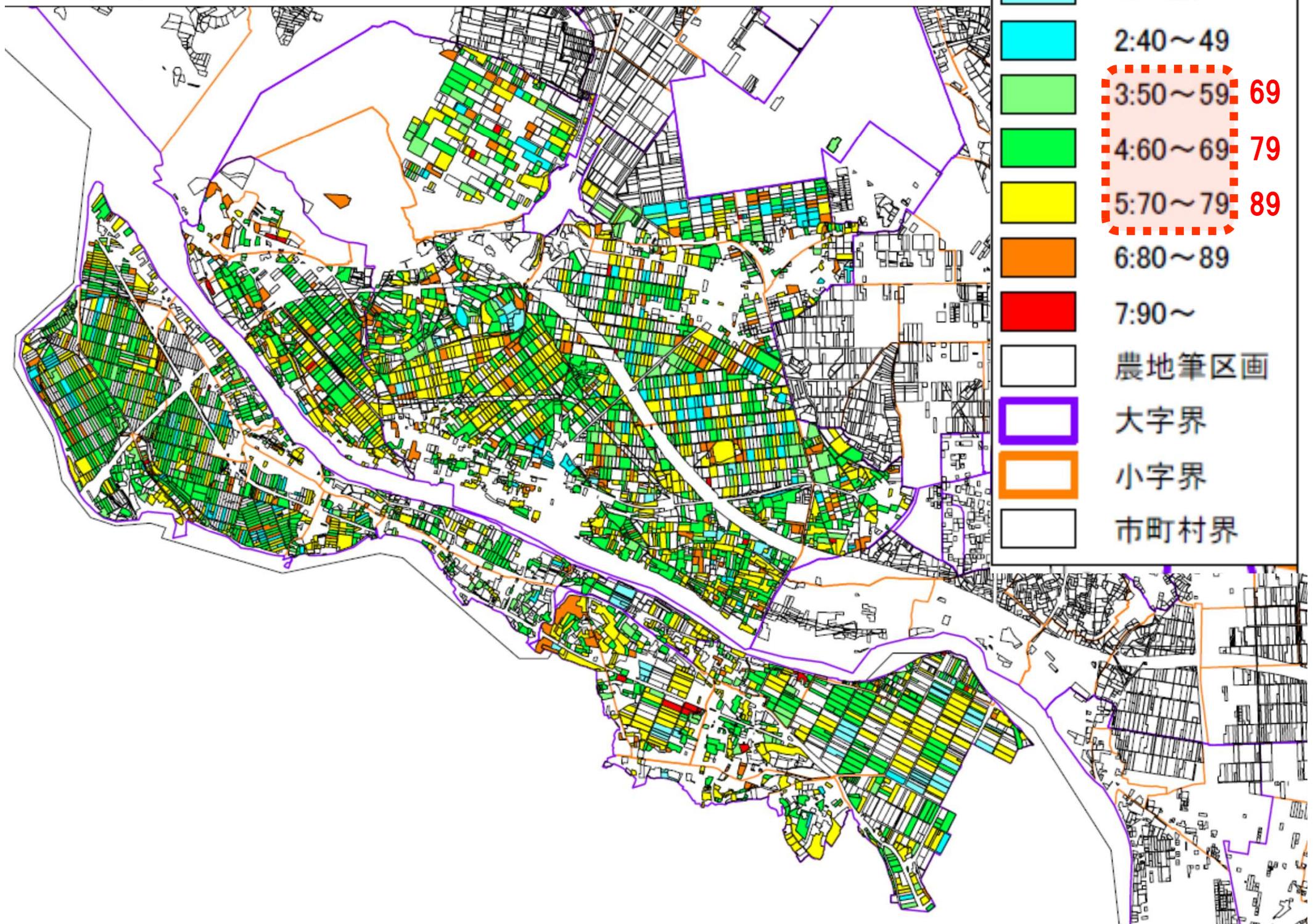
③ 地域農業の将来について話し合い（WS形式）

④ 担い手農家によるワーキング会議

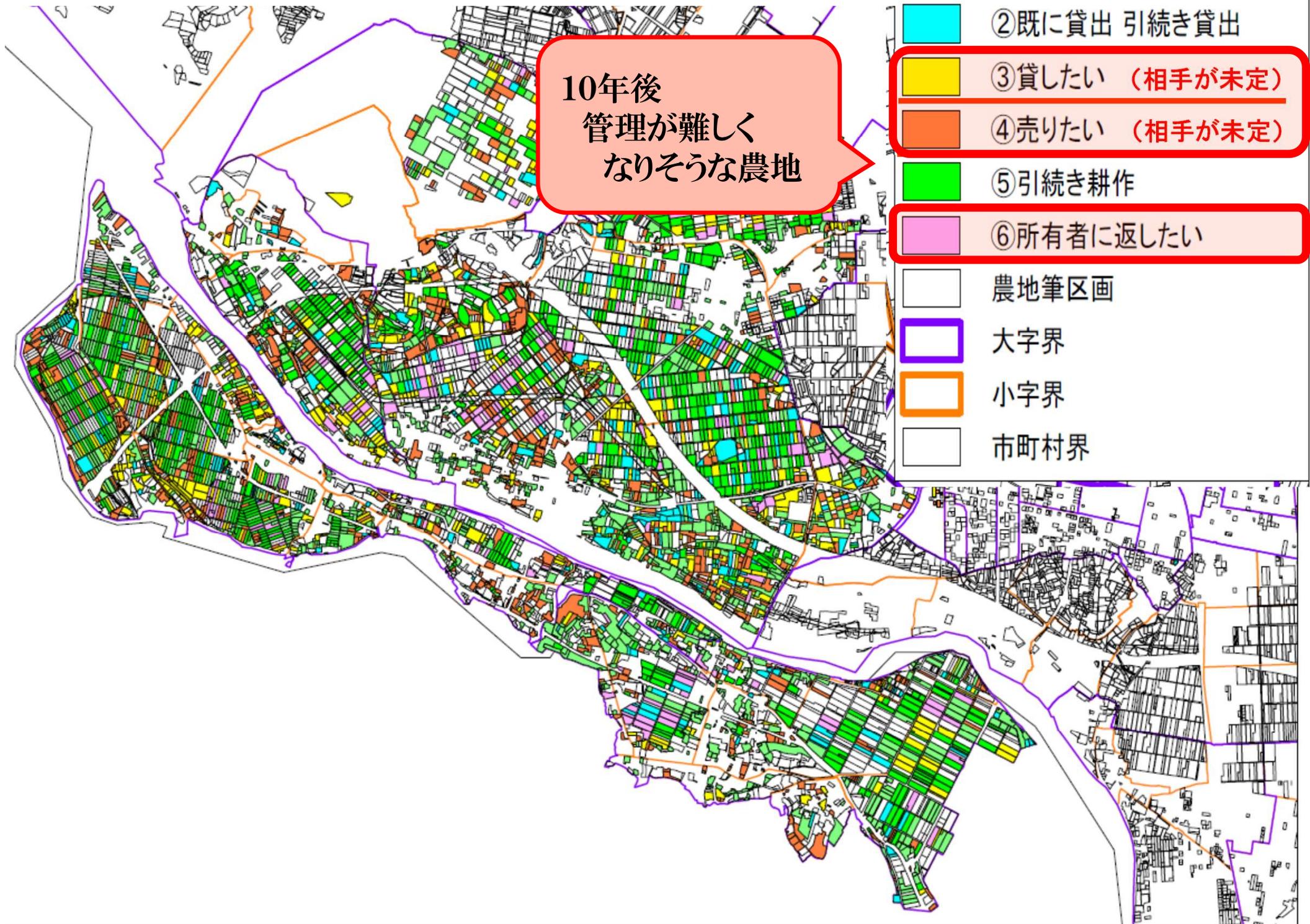


地域計画目標地図と営農計画図の作成

「耕作者年代調査地図 (R5. 8月時点)」



「意向地図(R5. 8月時点)」



※ 可能な限り広い範囲で

複数の「人・農地プラン」を一堂に集めて

※ 同じ作業を同時に進める

他の地区の話し合いを覗かせながら

①10年後も農業を継続していける人の検討

山形太郎

村山花子

地域内の人材

米沢市男

宮城次郎

秋田三吉

地域外からの人材

庄内米子

〇〇ライス

法人

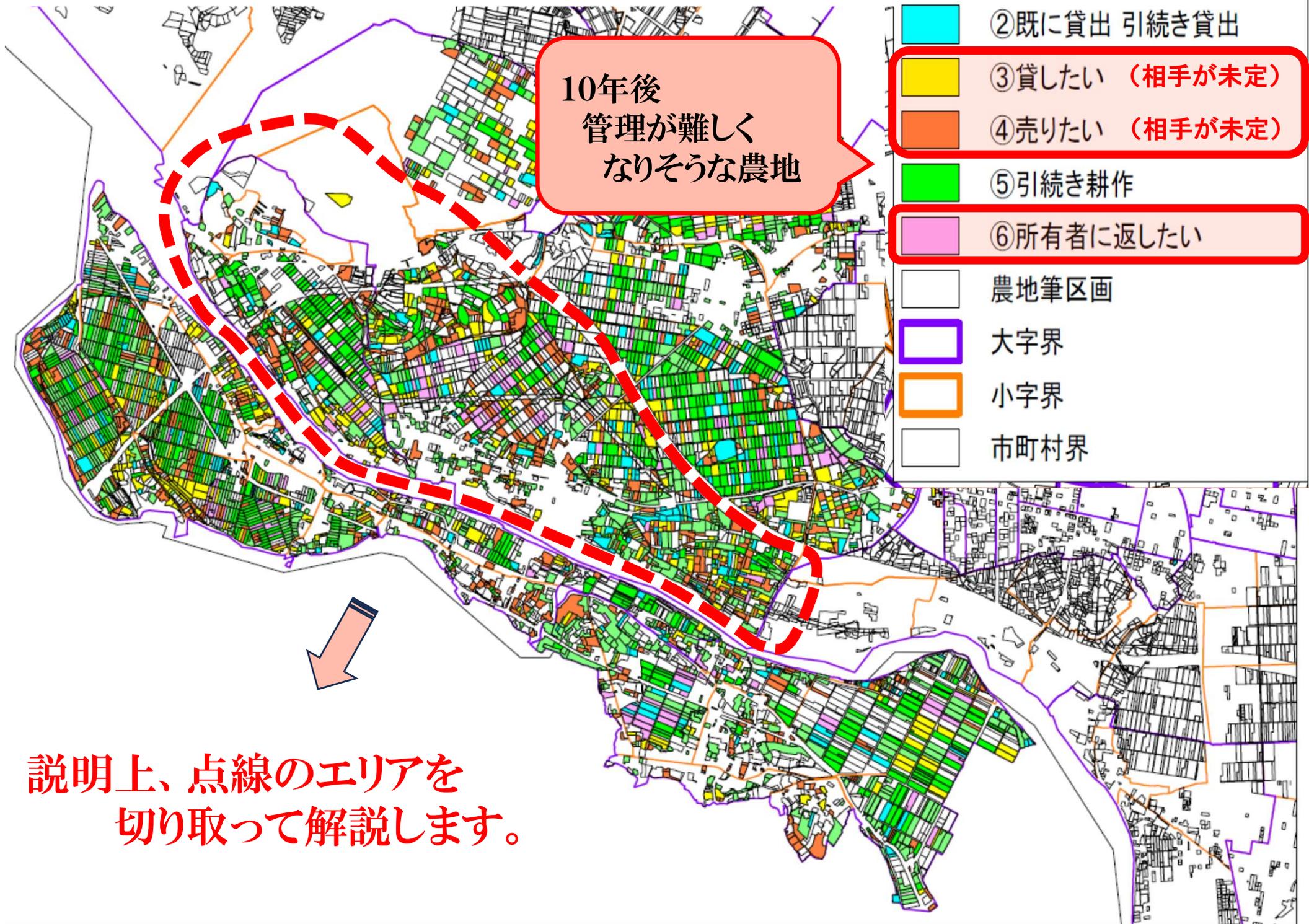
〇生産組合

組織

.....

...など

「意向地図(R5. 8月時点)」



脱色(ブリーチ)地図

この図面を使って、
白抜きの農地を
誰がどう管理するか？
を話し合う。

10年後管理が難しくなりそうな農地



貸したい (貸出先が未定)

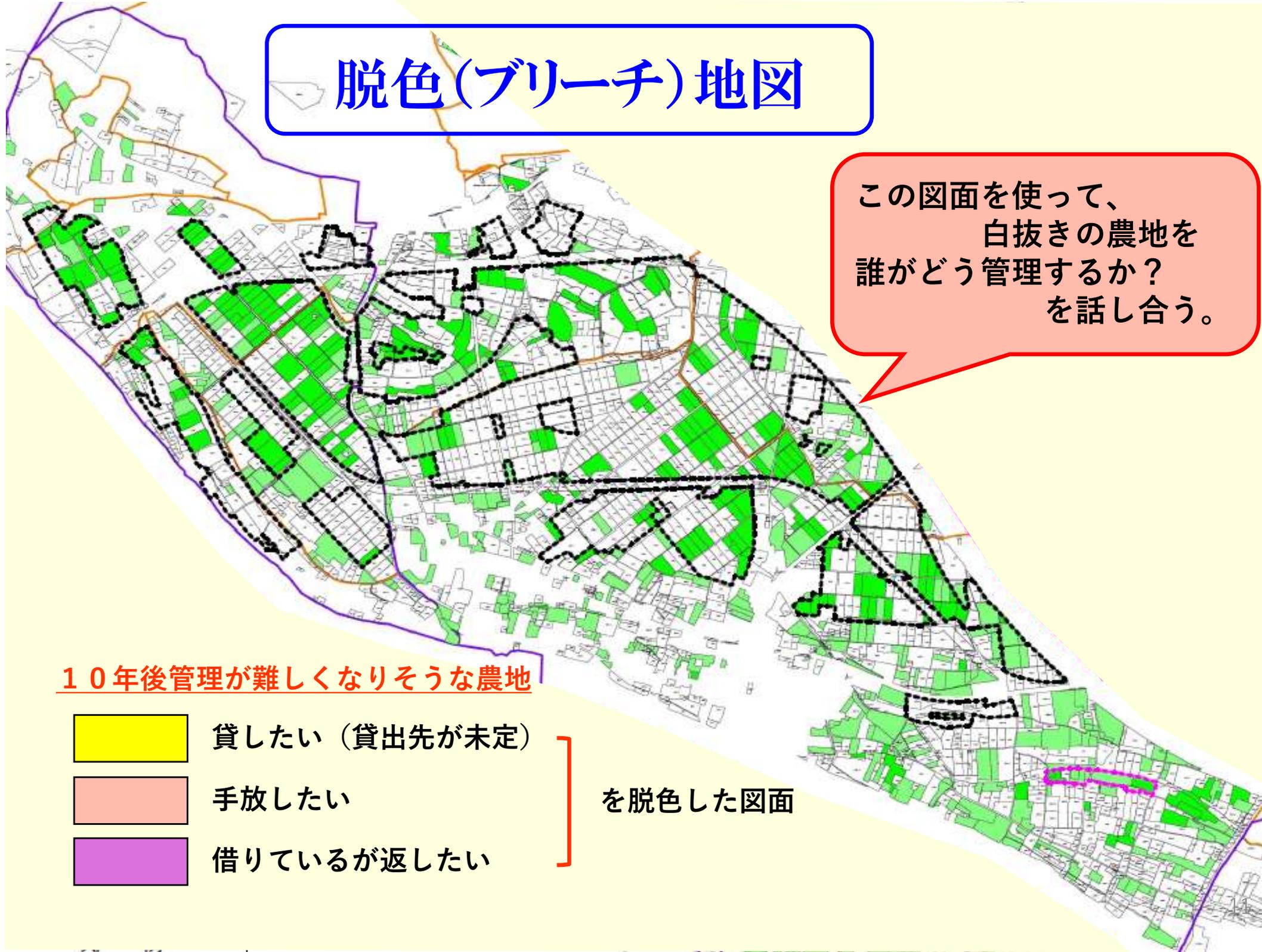


手放したい



借りているが返したい

を脱色した図面



※ 複数の地区がいるのだから

自力で無理なら隣の地区に救援要請

※ 机を合体させて可能性を探る

農地も人も貸し借りしたらどうかの検討

農地を次世代につなげようWS 提案内容

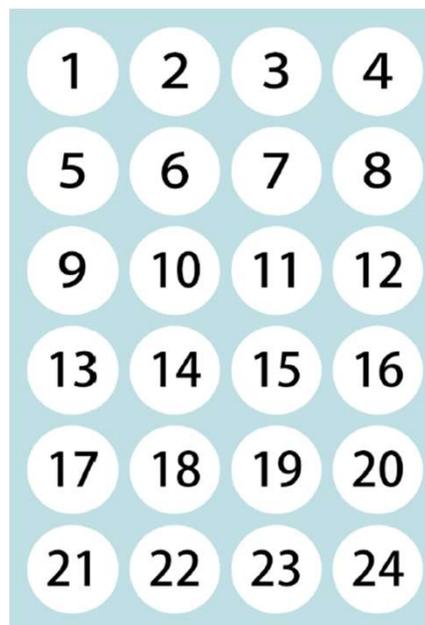
提案【金谷】

No.	作物	耕作者	面積 [ha]
41	米		10.0
42	米		20.0
43	米		5.0
44	米		5.0
45	米		50.0
46	枝豆		1.0
47	枝豆		1.0
48	枝豆		20.0
49	枝豆		2.0
50	アーモンド		1.0
51	菊芋		1.0
52	ぶどう		2.0
53	ぶどう		2.0
54	ぶどう		1.0
55	ぶどう (ワイン)		5.0
56	ぶどう (ワイン)		4.0
57	ぶどう (デラウェア)		1.0
58	ぶどう (デラウェア)		1.0
59	ぶどう (大粒)		1.0
60	ぶどう (大粒)		0.3
61	さくらんぼ (観光)		5.0
62	さくらんぼ		3.0
63	さくらんぼ		1.0
64	さくらんぼ		0.3

耕作者番号

作物が違えば
同じ耕作者を
その都度記入
する

作物と耕作者
ごとの番号
シールを作ると
便利



営農計画原案（1回目ゾーニング作業）



市町村が必ずやらなければならない4ステップ

地域計画は、令和7年3月末までに策定する必要があります。

そのためには、今後の日程を考慮し、次のスケジュールを目安に取り組みましょう。

1

協議の場
(法第18条第1項)
(規則第16条)

協議の場を設置

令和6年7月末まで

- ① 地域の農業者や関係機関と、協議の場の設置に向けた調整をします。

協議の実施

- ① ホームページなどで開催日時・場所を案内します。
- ② 農業者をはじめ、地域の関係者が参加します。
なお、全ての農業者が参加できなくても差し支えありません。
- ③ 協議の結果をホームページなどで公表します。

2

目標地図
(法第19条第3項)

目標地図を作成

令和6年12月末まで

- ① 担い手のほか、多様な農業者も位置付けできます。
- ② 畜産農家、養蜂家、農業支援サービス事業者なども位置付けできます。
- ③ 現時点で合意が得られない農地は「今後検討等」としても構いません。
- ④ 所有者等の意向が把握できなかった農地は「意向不明」としても構いません。

3

地域計画(案)
(法第19条第6・7項)

地域計画の案を作成

- ① 農業委員会、農地バンク、JA、土地改良区などの意見を聴取します。
- ② 地域計画の案を、2週間縦覧します。

4

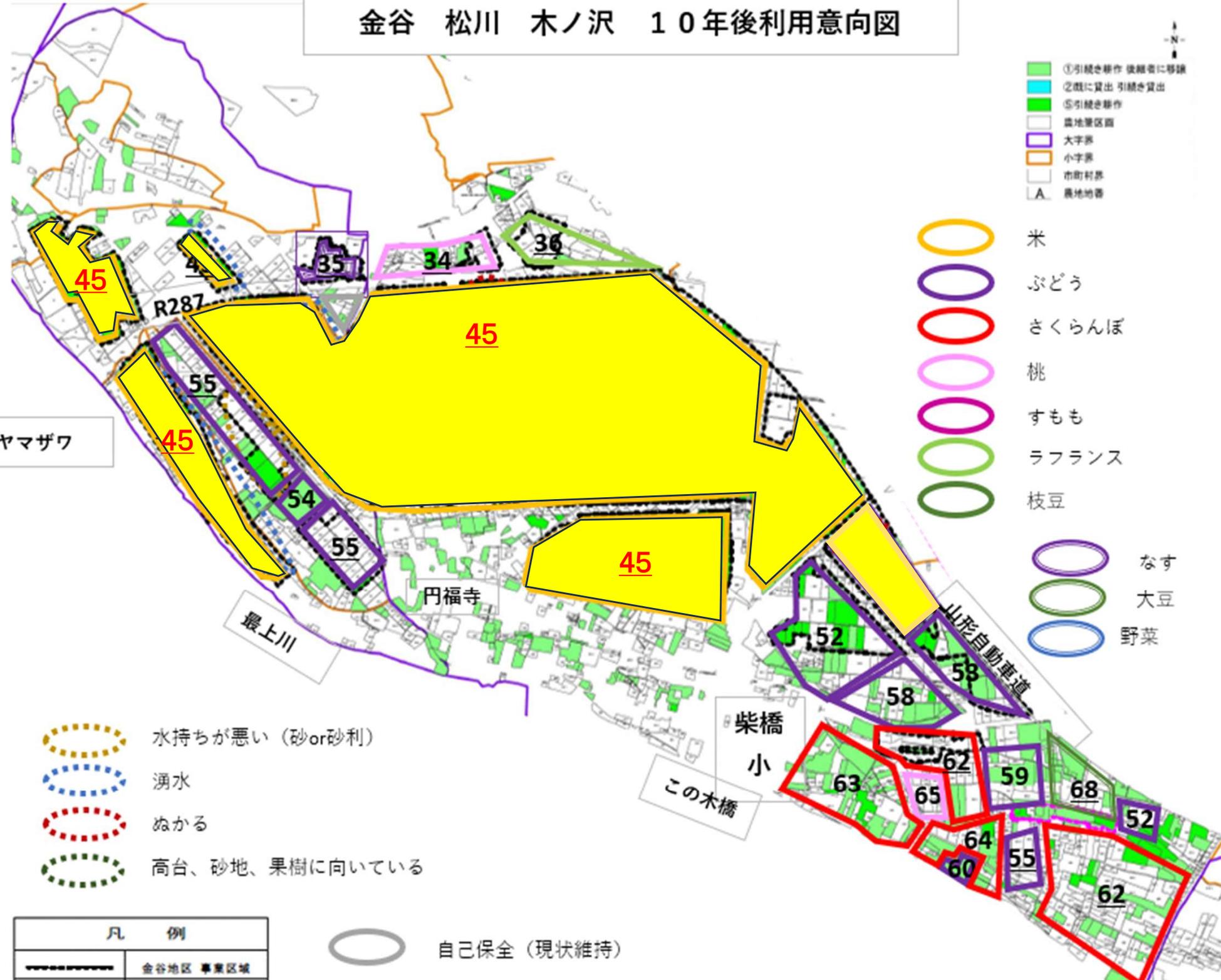
地域計画
(法第19条第8項)

地域計画の策定

令和7年3月末まで

- ① ホームページなどで公告します。
- ② 話し合いを継続し、毎年、地域計画をブラッシュアップします。

金谷 松川 木ノ沢 10年後利用意向図



- ①引き続き耕作 後継者に移譲
- ②既に貸出 引き続き貸出
- ⑤引き続き耕作
- 農地置区画
- 大字界
- 小字界
- 市町村界
- A 農地地番

- 米
- ぶどう
- さくらんぼ
- 桃
- すもも
- ラフランス
- 枝豆
- なす
- 大豆
- 野菜

- 水持ちが悪い (砂or砂利)
- 湧水
- ぬかる
- 高台、砂地、果樹に向いている

凡 例	
	金谷地区 事業区域

自己保全 (現状維持)

現場あるある？埋めにくい部分の逃げ道！

- ・今後検討or検討中など
- ・意向不明
- ・法人で対応など

このままの状態
実行に移行できる？

農地を次世代につなげようWS 提案内容

提案【金谷】

No.	作物	耕作者	面積【ha】
41	米		10.0
42	米		20.0
43	米		5.0
44	米		5.0
45	米	法人で対応	50.0
46	枝豆		1.0
47	枝豆		1.0
48	枝豆		20.0
49	枝豆		2.0

柴橋地区における地域計画作成の流れ

プラス

① アンケート実施（意向調査）

② 意向地図作成

③ 地域農業の将来について話し合い（WS形式）

④ 担い手農家によるワーキング会議

⑤ 女性と若者による話し合いの実施

⑥ 地域全体で調整会議を実施

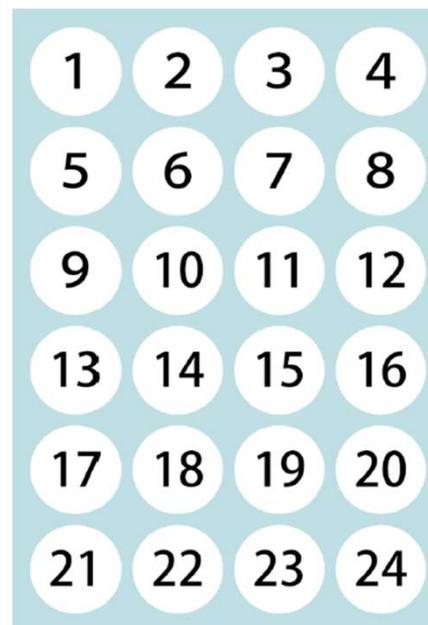
- ※ 現役世代の限界が見えた段階で
若手農家だけが集まった話し合い
- ※ 個々の意向に加えて共働も検討
互いに補い合える関係づくりにも波及

耕作者番号

作物が違えば
同じ耕作者を
その都度記入
する

提案内容				
提案【 寒河江中郷 地区】				
No.	作物	耕作者	面積【ha】	面積【ha】 図測
301	ブドウ			2.94
302	桃		1ha	0.7
303	リンゴ			0.61
304	サクランボ			0.7
331	デラウェア		3ha~	7.12
332	大粒			
333	ワイン			
334	デラウェア		0.67	
335	ワイン			1.83
提案【 金谷 地区】				
361	一般野菜			2.97
362	イタリア野菜			
363	長なす		20 a	1.57
364	里芋		20 a	
365	有機野菜		20 a位	
366	花木（ユーカリ）		10 a位	
367	花木（啓翁桜）		1h a位	0.24
368	花木（スモークツリー）		30 a	
369	ブドウ		5ha位	
370	施設野菜			1.77
371	ラフ、さくらんぼ、桃		2.5ha位	2.65
372	ブドウ、さくらんぼ、桃		2ha	1.8
373	ブドウ		2ha	3.6
391	柿		3ha位	3.14

作物と耕作者
ごとの番号
シールを作ると
便利



金谷 松川 木ノ沢 10年後利用意向図

- ①引き続き耕作 後継者に移譲
- ②既に貸出 引き続き貸出
- ③引き続き耕作
- 農地置区画
- 大字界
- 小字界
- 市町村界
- A 農地地番

- 米
- ぶどう
- さくらんぼ
- 桃
- すもも
- ラフランス
- 枝豆
- なす
- 大豆
- 野菜

- 水持ちが悪い (砂or砂利)
- 湧水
- ぬかる
- 高台、砂地、果樹に向いている

凡 例	
	金谷地区 事業区域

自己保全 (現状維持)



金谷 松川 木ノ沢 10年後利用意向図

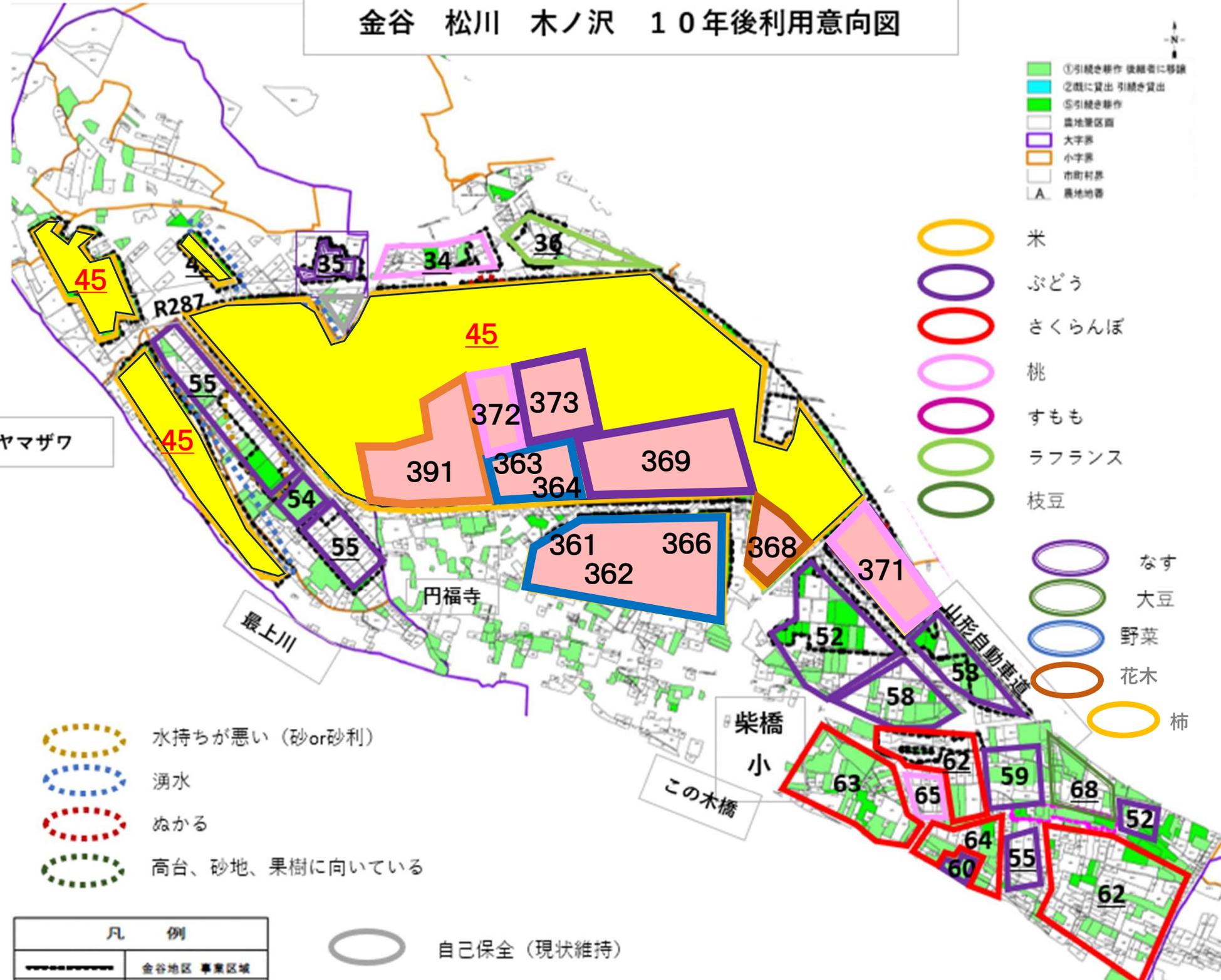
- ①引き続き耕作 後継者に移譲
- ②農に貸出 引続き貸出
- ⑤引き続き耕作
- 農地置区画
- 大字界
- 小字界
- 市町村界
- A 農地地番

- 米
- ぶどう
- さくらんぼ
- 桃
- すもも
- ラフランス
- 枝豆
- なす
- 大豆
- 野菜
- 花木
- 柿

- 水持ちが悪い (砂or砂利)
- 湧水
- ぬかる
- 高台、砂地、果樹に向いている

凡 例	
	金谷地区 事業区域

自己保全 (現状維持)



※ 若者の意向を計画に反映

若手農家と現役世代の意向の調整

※ 計画を実現するため必要なこと

実現可能とするための条件を見える化

※ 令和7年度からの取り組み

本当に法人で対応するのか再検討

※ 実行していくための条件整備

令和7年・8年の2か年で対応策決定

話し合いの進め方？
(※どんな手順で…)

地域計画策定に
向けた
話し合いの進め方

～一人ひとりの思いが
地域農業の未来を拓く～



令和6年3月
一般社団法人 山形県農業会議

話し合いの参考書

10年後を話し合う？
(※どうやって形に…)

このマニュアルに詰め込んだもの

この4年間山形県内で取り組んできた事例から

- 農地整備事業の営農計画と地域計画の連携
(複数集落の地域計画を同時進行で策定)
- 中山間地域における営農計画と地域計画づくり
- 中山間直接支払いの集落戦略づくり
(集落戦略※と地域計画の関連づけ)
- 平場地域と中山間地域で同じ手法でやれるのか

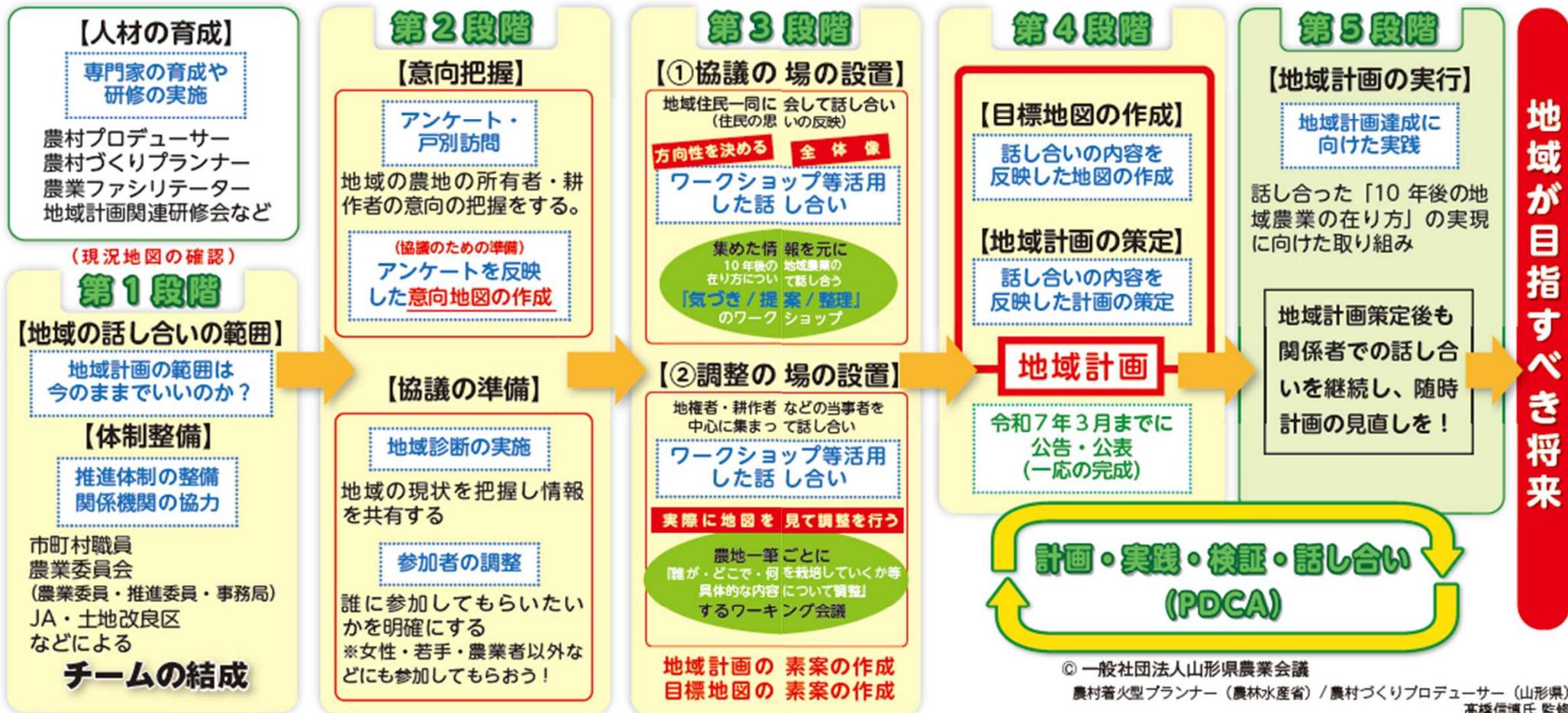
地域の人が幸せに暮らせる農村を創るための

「地域計画・目標地図」づくりの5段階



伴走支援・フォローアップ

※地域の実情に合わせて進めていきましょう!



©一般社団法人山形県農業会議
 農村着火型プランナー(農林水産省)/農村づくりプロデューサー(山形県)
 高橋信博氏 監修

※第3段階に示す、「全体像・方向性を決める話し合い」と「誰が・どこで・何を栽培していくかを決める話し合い」の手法については、「第1部話し合い手法」で詳しくご紹介しています。



やまがた地域の農地を活かし、持続可能な農業・農村を創る活動

地域計画策定に
向けた
話し合いの進め方

～一人ひとりの思いが
地域農業の未来を拓く～



令和6年3月
一般社団法人 山形県農業会議

この画面をクリックして
ダウンロードを

現場の話し合いを進める

人材の育成について

農林水産省 令和7年度も開催 今年5年目に突入

農村プロデューサー養成講座

～地域に消えない火を灯せ～

～ 令和7年度～

※入門コース

全6回のオンライン講義

※実践コース

全2回のオンライン講義
対面講義を全国で開催
受講後のオンラインゼミ

※ネットワーク

交流と情報交換の場

入門コースの講演者と実践コースの講師陣

- 令和7年度は、「入門コース」（参加自由）を7月、「実践コース」（定員制）を9月に開講予定。
- 「実践コース」は、ホームページ上にある実践コース受講申込書で応募可能。（募集は5月下旬頃からを予定）

入門コース 講演者（オンライン講演）

6つの分野別に、講演者それぞれから地域づくりに関する取組内容を学ぶ。

第1回 【総論分野】

令和7年7月4日（金）19:00～



東京大学助教授等を経て、2006年より現職。専門は、農村政策論、地域ガバナンス論。国内外の農山村地域を歩き、集落レベルから国の政策レベルまでの実態を研究し、政策提言を行っている。
著書：『農山村は消滅しない』（岩波新書）、『農村政策の変貌』（農文協）、『にぎやかな過疎をつくる—農村再生の政策構想』（農文協、近刊）など多数。

明治大学農学部 教授 小田切 徳美 氏

第2回 【イノベーション分野】

令和7年7月11日（金）19:00～



ビジネスプロデューサー／クリエイティブディレクター。静岡県湖西市出身。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻卒。国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE」を立ち上げ、超絶まちづくりの集合知を社会にシェアしている。
著書『最強の縄文型ビジネス』（日本経済新聞出版社）で「TOPPOINT大賞」ベストビジネス書受賞。

BBT大学大学院 経営学研究科 MBA 教授/
一般社団法人INSPIRE 代表理事 谷中 修吾 氏

第3回 【コミュニティ・地域づくり分野】

令和7年7月18日（金）19:00～



名古屋大学教授、東京大学教授を経て、2025年より現職。2013年から20年、東京大学高齢社会総合研究機構副機構長併任。文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会委員。農林水産省農村RMO研究会アドバイザー。専門は社会教育学、生涯学習論。人が生活の営みを続け、成長していくことに現れるさまざまな事象を通して、社会のあり方を考え、人が幸せに暮らすために何ができるのかを考えること、特にコミュニティの自律と住民の学習とのかかわりに関心がある。

大正大学地域創造学部 教授 牧野 篤 氏

第4回 【地域資源利活用分野】

令和7年7月25日（金）19:00～



東京工業大学卒業後、三菱総合研究所、筑波大学等を経て現職。建築計画と都市・農村計画をベースとしたフィールド研究を続けているプランナー。農村計画学会会長。
共著書「震災復興から俯瞰する農村計画学の未来（農林統計出版2019）」「クロノデザイナー—空間価値から時間価値へ—（彰国社2020）」「人口縮小！どうする日本？（東大出版会2025）」等。

東京科学大学 環境・社会理工学院 建築学系
教授 斎尾直子 氏

第5回 【地域づくり実践分野①】

令和7年8月1日（金）19:00～



旅行会社や観光協会勤務を経て鹿児島県南九州市瀬尾町へ移住。瀬尾の暮らしを体感できる「暮らしの宿 福のや、」の運営やNPO法人瀬尾おこそ会の理事長として「地域総力戦のまちおこし」に取り組む。
NPO法人瀬尾おこそ会では、地域や行政と連携しながら、観光と農業の連携、商店街の活性化、空き家再生、移住者受入等を実施。

暮らしの宿 福のや、代表 瀬川知香氏

第6回 【地域づくり実践分野②】

令和7年8月8日（金）19:00～



家業の「地酒の駅・そうま屋米酒店」を営みながら、「日本の田舎町再生のお手本づくり」をテーマに2009年「プロジェクトおおわに事業協同組合」を立ち上げる。
町営施設の指定管理者と「大鍋温泉もやし」の生産者育成&ブランディングに着手し町の活性化に貢献。

プロジェクトおおわに事業協同組合
副理事長 相馬 康穂 氏

実践コース 講師（オンライン講義+対面講義）

経験豊富な講師陣。事例を基にした模擬演習や地元での実践を通じ、現場力をアップする。



2021年3月まで、農業土木技術者として山形県庁に在職。この間、農地や生活環境の整備に併せて、事業を契機とした地域の元気づくりに注力してきた。山形県職員なのに？全国各地からの声に応え、気づけは1,000以上の事例と関わり、地域自ら動き出したくなる「地域づくり」を展開してきた。定年からの4年間、このノウハウを農村プロデューサー養成講座を通して広く伝えている。

農村着火型プランナー/
山形県農村づくりプロデューサー
高橋 信博 氏



2018年に愛媛県庁退職。在職中は、協働自治による行革、地域包括ケア・虐待防止、地域担当職員として地域に深くかかわる。2014年4月から3年間、地域活性化センター派遣となり、全国の地域人材育成と地域づくり伴走支援に従事。
現在は、「はたらく」を通じて人と地域をつなぎ、課題解決思考から価値創造思考への転換、あいだをつなぐ人材育成、しごとづくり・創業支援に取り組んでいる。

労働者協同組合やさしいまちづくり総合研究所
常務理事・主席研究員 前神 有里 氏



岩手大学農学部修了後、札幌で民間コンサルタント会社に入社し、公共交通に関する調査や計画策定に携わる。2005年博士（農学）取得。
岩手県花巻市を拠点に、地域運営組織の立ち上げ支援や地域交通（デマンドタクシーやボランティア送迎等）の導入支援に取り組んでいる。

特定非営利活動法人いわて地域づくり
支援センター 常務理事 若菜 千穂 氏



大学卒業後、民間企業の営業職を経てNPOの世界へ。現在は市民が主体的に活動する地域づくりを目指し、コミュニティプランナーとして活動。市民参加のプロデュースを行う（一社）シミズシーズ総合研究所の代表理事をつとめる他、（一財）明石コミュニティ創造協会の常務理事兼事務局長として地域自治組織支援や生涯学習・男女共同参画の推進等にも関わる。

一般財団法人明石コミュニティ創造協会
常務理事兼事務局長 / 一般社団法人シミズ
シーズ総合研究所 代表理事 柏木 登起 氏

※入門コース(フリー)

全6回のオンライン講義



- ① 7月 4日(金) 19:00~
- ② 7月11日(金) //
- ③ 7月18日(金) //
- ④ 7月25日(金) //
- ⑤ 8月 1日(金) //
- ⑥ 8月 8日(金) //

※実践コース(定員)

全2回のオンライン講義

(Zoomによる座学)

対面講義を全国で開催

(連続3日間の対面実習)

- ① 9月10日(水)
- ② 9月17日(水)

- ①10月 1日(水)~岡山会場
- ②10月15日(水)~金沢会場
- ③10月27日(月)~仙台会場
- ④11月10日(月)~東京会場

先ずは…

農村プロデューサー



で検索を！

人や地域がその気にならないと
何も始まらないそして何も起こらない

動かそうとする者の
熱意が伝わらなければ
未来への扉は開かない



@nobu